

バスビー論文 (The health outcome of the Fukushima catastrophe Initial analysis fro risk model of the European Committee on Radiation Risk ECRR, Chris Busby) に関するコメント

宇野賀津子(レイ・パストゥール医学研究センター 基礎研究部)

バスビー論文は、トンデル論文を根拠に、さらにECRRモデルなるもので計算したとして、以下の予測を出している。

Table 5 福島周辺の100km圏内において予測させるがん増加数 (バスビーによる)

モデル	がん発症件数	備考と予測
ICRP	2,838	50年間ずっと1時間あたり $2\mu\text{Sv}$ の集団線量を受け続けるとする。
ECRR トンデル法	103,329	原発事故以降10年間に、表面汚染のみを勘案した場合。
ECRR 無条件モデル	191,986	50年間ずっと1時間あたり $2\mu\text{Sv}$ の集団線量を受け続けるとする;おそらく半分の件数が直後の10年間に起こると思われる。

そしてさらに、結論と勧告として以下のように述べている。

1. 福島原発事故から半径100km圏内に住む300万人の人にECRRリスクモデルを当てはめた。住民が1年間同地区に住み続けると仮定すると、この方法によって予想されるがん発症増加件数は今後50年間で約200,000件で、100,000件がこれから10年間のうちに発症する。直ちに退避すればこの数は著しく減るだろう。100~200km圏内に住む700万人のがん発症増加件数はこれよりやや多く、今後50年間で220,000件で、100,000件がこれから10年間のうちに発症する。この予測はECRRリスクモデルとチェルノブイリ事故後のスウェーデンにおける発がんリスク調査結果に基づくものである。
2. ICRPモデルによる100km圏内のがん発症件数増加数は2838件である。したがって最終的な評価は2つのリスクモデルの値を採用する [The eventual yield will therefore be another test of the two risk models.]
3. 日本の文部科学省が公式に発表したγ線線量率をもとに、一般的に認められている科学的手法を用いて測定地点の表面汚染を逆算することができる。その結果、IAEAは汚染レベルを著しく低く報告していることが分かる。
4. 直ちに同位体による地表汚染の測定を考慮すべきことを勧める。
5. 福島原発から北西100km圏内の住民は直ちに退避し、この地域は立ち入り禁止区域とすることを勧める。
6. ICRPリスクモデルは考慮から外すべきで、あらゆる政治的判断は欧州放射線リスク委員会 (www.euradcom.org) の勧告をもとになされるべきである。

先に述べたようにバスビーの論文が、根拠としているトンデル論文自体が本来のがんの自然史から考えて問題の多い論文である。さらには事故後6年の間に認められたがんリスクの上昇を、あたかも、その後50年にわたるがんリスク全てのように表現し、原発100km圏内は立ち入り禁止区域とすべきとのECRR言説は、科学的根拠を欠いた脅迫以外のなにものでもない。

今回私たちはトンデルの2006年の論文を詳細に検討した。その結果、トンデル論文そのものを検証することなく、その一部の数字を取り上げ、それでもってがんリスクを語る研究者やマスコミの資質には疑問をもつとともに、このような研究者(?)の存在が今の日本の低線量放射線の影響に対する、科学者の混乱を招いている大きな原因であると考えられる。

併せて、バスビーの論文には、以下に示すように引用文献にトンデル氏が題名に?をつけている部分が2報とも、?が抜け落ちている。研究者の間では?のついた論文は、著者自身がまよっていると判断する。これをあえて抜け落とした意図を感じざる。

References

ECRR2010 The 2010 Recommendations of the European Committee on Radiation Risk. Edited by Chris Busby, Rosalie Bertell, Alexey Yablokov, Inge Schmitz Feuerhake and Molly Scott Cato. Brussels: ECRR; available from www.euradcom.org

The Lesvos Declaration (2009) see www.euradcom.org

Tondel Martin, Lindgren Peter, Hjalmarsson Peter, Hardell Lennart and Persson Bodil, (2006) Increased incidence of malignancies in Sweden after the Chernobyl accident. *American Journal of Industrial Medicine*, (49), 3, 159-168.

Tondel M, Hjalmarsson P, Hardell L, Carisson G and Axelson A (2004) Increase in regional total cancer incidence in Northern Sweden. *J Epidemiol. Community Health*. 58 1011-10